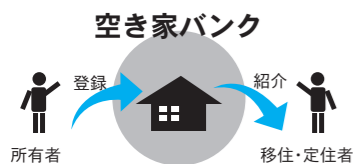


# 空き家のためのサービスを 活用してみませんか？



## その1

賃貸&売却の検討は  
「空き家バンク」まで



空き家バンクは、移住・定住を希望する人に、市が市内の空き家の情報を提供する制度です。移住・定住者は、一軒家で田舎暮らしを楽しんでいる人が多いのが特徴で、多少古くても空き家のニーズがあります。登録方法などの詳細は、問い合わせください。

◎問い合わせ 市連携交流課(☎62-2111内線322)

## その2

離れて住む所有者向け  
「空き家管理サービス」



※イメージです

遠野市シルバー人材センターでは「空き家管理サービス」を行っています。家の状況、郵便物の状況、庭木や雑草の状態を確認し、写真付きで依頼者に報告します。このサービスは、ふるさと納税の返礼品にもなっています。料金などの詳細は問い合わせください。

◎問い合わせ (公社)遠野市シルバー人材センター(☎62-0577)

## その3

空き家に関する悩みは  
専門機関に相談を



市都市計画課は▷解体か活用かで悩んでいる▷相続がなかなか進まない▷危険な空き家がある▷将来的に空き家になるがどうすべきか分からない一などの相談に応じています。内容に応じて担当部署や専門機関への橋渡しも行っています。お気軽に相談ください。

◎問い合わせ 市都市計画課(☎62-2111内線542)



## 「空き家」調査の結果をお知らせします 「空き家」を管理・活用して 遠野の元気につなげよう！

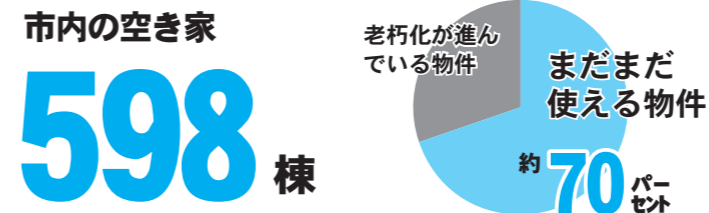
人口減少などの影響で、全国的に増加している「空き家」。「空き家」は、そのままにしておくことで老朽化してしまいますが、適切な管理を行えば、所有者も地域も元気になる大切な資産に変わります。

◎問い合わせ 市都市計画課(☎62-2111内線543)

### 空家等対策特別措置法

平成27年に「空家等対策特別措置法」が施行され、行政は計画を立てて空き家対策を適切に講じ、空き家所有者は空き家を適切に管理することが義務づけられました。著しく管理不全な状態になり、法で定める「特定空家等」に該当すると、行政指導を受けたり、場合によっては固定資産税の優遇が無くなり、税金が高くなることがあります。

平成28年度空き家等実態調査より



### 増加する空き家

全国的に増加している空き家。少子高齢化によって人口や世帯数が減少している一方、日本では新築が好まれることから、住宅総数は増え、結果として空き家が増えています。空き家となるきっかけは、住人が高齢となって施設に入所したり、亡くなったたりするケースが多く、その中には、適切な管理が行われず老朽化が進んでいるものもあります。それらは、周辺の景観を損ねるだけでなく、倒壊などの危険性もあ

### 気になる調査結果は

そこで市は、昨年度に市内の空き家の実態調査を実施しました。空き家の総数を把握し、老朽度や利活用度なども判定。さらに、空き家の所有者やその家族などにアンケート調査も行いました。調査結果によると、市内の空き家は598棟あり、その約7割が、容易に利活用可能な状態の建物と判定されました。また、ア

移住相談窓口「で・くらす遠野」を通して  
本市に移住した人数と世帯数

年度	H24	H25	H26	H27	H28
人数	23	16	16	21	18
世帯数	11	10	8	13	9

※「で・くらす遠野」を通さずに移住する人も相当数あり、空き家ニーズが高まっています

市は、今回の調査結果を基に、空き家の適正な管理・活用に向けた計画を策定する予定です。その計画に基づき、所有者などに対し各種制度・サービスの情報提供やアドバイスを積極

**情報提供と計画策定  
で管理・活用を推進**

ンケート調査では▽誰かに貸したい方法が分からない▽遠くに住んでいてなかなか見に行けない▽高齢になり管理が大変▽相続について相談したい一など、管理・活用に前向きであるものの、その方法が分からず困惑したり、将来に不安を抱えたりしている所有者が多いこともわかりました。

### 空き家を遠野に人を 呼び込む財産に

家は人が住まなくなるとすぐに傷むといわれています。まだまだ住めるもったいない空き家は、貸し出し、適切な管理を施して資産価値を減少させないことが最も有効です。活用方法として市が推奨しているのは、空き家バンクへの登録。空き家バンクは、所有者の皆さんに登録していただいた空き家を、本市に移住・定住を希望する人に市が紹介する仕組みです。日本のふるさとの原風景が残る遠野にはファンが多く、都市部などから移住・定住をする人がたくさんいて、空き家のニーズが高まっています。

空き家は、放置すると老朽化が進み、負の財産になってしまいます。しかし、しっかりと管理・活用すれば、遠野に人を呼び込み、地域を元気にする財産になる可能性があります。

平成28年度空き家等実態調査

## 空き家調査で 分かったこと

### ☑ 確実に増えている「空き家」

今回空き家と判定された物件は598棟。3年前は約380棟であったため、この3年間で空き家の総数は1.5倍以上に増加しました。

### ☑ まだまだ使える物件が大半

容易に利活用可能な物件は約7割もありました。一方で、倒壊などの危険性がある物件は市内に50棟以上あり、早急な対策が必要です。

### ☑ 管理方法や活用方法を知らない所有者が多い

空き家所有者に対するアンケート調査では、管理・活用に前向きであるものの、その方法が分からない人が多いことがわかりました。